

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日： 2016年 3月 10日

所属： 教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修 3年

氏名： 藤森 鉄平

派遣先大学名： カリアリ大学（イタリア）

在籍身分： 交換留学生

派遣期間： 1年間

渡航年月日： 2015年 2月 23日

帰国年月日： 2016年 2月 12日

○派遣先大学における授業等の履修状況

授業名	履修期間	講義時間
ビジネスコミュニケーション	2015年3月～2015年6月	週2コマ(前期)
イタリア語	2015年3月～2015年5月	週3コマ(前期)
言語運用	2015年9月～2016年1月	週2コマ(後期)
翻訳論	2015年9月～2016年1月	週2コマ(後期)
英語コミュニケーション	2015年3月～2015年6月, 2015年9月～2016年1月	週2コマ(前期) 週2コマ(後期)
英語学	2015年3月～2015年6月, 2015年9月～2016年1月	週2コマ(前期) 週2コマ(後期)

○研究・学習概要及び今後の勉学計画

異文化に触れることが大好きな私にとって、イタリア語という馴染みのない言語を勉強しながら、長年学習してきた英語を磨き続けることの出来るこの環境は、大変満足のいくものとなりました。イタリア語のレッスンは、レベル別にクラスが分かれているため、一人一人の進捗状況に合わせ適切なステップを踏んで学習することが出来ます。私のクラスには40名程度の学生が居り、教授と学生による対話形式の講義や、学生参加型の言語活動など、実践的な内容が数多く盛り込まれて居



カリアリの街並み。曇っていても絵になる。

(様式 2)

りました。何より、ご指導して下さる先生方が大変親切で優しいです。授業のない時間は参考書学習の他、英語が話せるイタリア人学生たちに必死になって頼み込み、会話力をつけようとイタリア語をひたすら練習しました。留学生たちのほとんどは、スペイン、フランス等、ラテン語圏出身で、彼らにとってイタリア語を話す事はそれほど難しいことではないようです。いとも簡単にステップアップしていく彼らに負けまいと、自分の置かれた環境を最大限学習に活用しました。

また幸いなことに、友人との何気ない会話から、現地の高校に伺う機会を何度か頂きました。イタリアの教育現場を目の当たりにし、留学や国際交流に関心の高い生徒たちに出会えたことは、今後、自分のキャリアを考えていく上でもプラスに働くのではないかと考えて居ります。最も、日本語という未知なる言語に目を丸くしていた生徒たちの表情は忘れることが出来ません。

語学学習の成果という観点からこの1年間を振り返ると、英語に関しては、理解するスピードや返答するスピードが格段に早くなったと実感して居ります。とりわけイギリス人の留学生に仲良くして頂いたという経緯もあり、ネイティブスピーカーから学べることの多さに日々感動して居りました。イタリア語については、留学当初は挨拶も儘ならない状態でしたが、1年後には英語に頼らずとも支障なく生活出来る様になりました。



学校訪問にて。100人以上の高校生、職員の方々の前で発表させて頂いた。

今後、自分の外国語能力を向上させるべく、TOEICスコア900点突破、実用英語技能検定1級、そして実用イタリア語検定2級合格を目標として日々学習に励むとともに、



高校訪問後。教室を出た途端、生徒たちに囲まれた。

に、自分がこの留学で得た経験、そして留学するということの素晴らしさや有難みを生徒たちに伝えられるよう、来年度予定されている教育実習を見据え、より質の高い準備をしていきたいと考えて居ります。

○生活面について

「外国語のシャワーを浴びたい」そんな思いから、昨年イタリアへ留学し、それまで馴染みの無かったシェアハウスという環境に一年間身を置きました。英語やイタリア語を始めとする様々な言語に囲まれた、夢のような時間を過ごして居りましたが、留学当初は困難にも直面致しました。視界に入るもの、耳にするもの全てが母国とは異なる生活を送る一方で、自分の発音を馬鹿にされたことや、時にはアジア人というだけで差別を受けたことも有りました。このような経験があったからこそ、自分の英語における問題点を見直し、そのような思いは二度としたくないという一心で、一年間モチベーションを落とさずに勉強することができたのだと考えて居ります。



何を口にしても美味しい。食べ過ぎ注意。

留学当初は、慣れないイタリア語に苦労し、英会話に頼ることが大半でしたが、時間とともに、現地の方や他の国々の留学生、シェアハウスの仲間達とサッカー等で汗を流し、ゲーム後には食事をしながらイタリア語で会話を楽しむことも出来るようになりました。留学を終えた現在も、イタリアで知り合った友人達と近況を語り合っており、彼らとの再会にむけ、日々語学学習に励んで居ります。



スーパーに行くと、売り場の端から端まで永遠とパスタが並べられている。



“お前は俺たちの家族だ。”
その一言が、どれほど嬉しかったことか。

○その他留学全般にわたる感想

私自身、留学するまでは多少不安も有りました。しかしながら、私がこの留学生活中に不満を持ったことは一切ありませんし、困ったことや悩みがあれば、いつでも相談相手になってくださり、素敵なアドバイスをしていただけ仲間にも恵まれたということには、感謝してもしきれません。勿論、相談するという行為は、まず自分からアクションを起こし誰かに話しかけないことには始まりません。最初は、勇気を持って他者に話しかけることに抵抗を感じる方もいらっしゃるかと思います。ただ、喜ばしいことに、私が人々に相談を持ち掛けると親身になって対応していただけたばかりか、そこから彼らとの友情が深まったということも少なくありませんでした。日本人には真似できないほど感情表現が豊かで、学生1人1人のコミュニケーション能力も高く、日々新たな出会いと発見に溢れて居りました。



サルディーニヤが誇る、数多のビーチ。
夏にはヨーロッパ中から観光客が集まる。

また、この留学期間中は、休暇を活用しヨーロッパ一周を目指した一人旅にもチャレンジ致しました。旅先では、現地の方々との素晴らしい出会いに恵まれました。スロヴァキアで出会った新たな仲間たちと共に登山やキャンプをし、スイスでは地元の少年達とサッカーをする等、どの場面を思い返しても、新鮮で忘れられない出来事ばかりです。このような海外での経験を通じ、自分で考え見聞きし行動すること、そして周りの人々を思いやり、感謝の気持ちを持って一人一人と真摯に向き合うことの大切さを学びました。



旅先スロヴァキアにて。タトラ山脈登頂。

最後になりましたが、この留学をご支援して下さった皆様に心よりお礼申し上げます。今後も、秋田大学の発展、国際交流事業の活性化に貢献出来る様、精一杯努力していくと共に、たくさんの人や文化に出会い様々な課題と向き合いながら、自分の人生、そして社会全体をより豊かなものへ変えていきたいと考えております。

(様式 2)



シェアハウス生活の様子。(寝室、バスルーム、キッチン)
大変ありがたいことに、食器や寝具等は元々用意されていた。



自宅側にある、お気に入りの路地。



帰国前夜。本当にたくさんの方々に支えられた。